

奈良市
子ども条例検討に伴うアンケート調査
コメント

平成25年3月
奈良市子ども条例検討委員会

目 次

I 奈良市の子どもたち

1. 核家族化と三世代居住…………… 1
2. 学習塾、部活、習い事…………… 1
3. コミュニケーション…………… 1
4. 意識…………… 4
5. 居場所…………… 1 2
6. 地域の生活とコミュニケーション…………… 1 3
7. イジメ等の問題対処…………… 1 4
8. 自己決定…………… 1 4
9. 将来の夢や目標の有無…………… 1 4
10. 総合化…………… 1 5

II 大人へのアンケート結果

1. 概要…………… 1 7
2. コミュニケーション…………… 1 7
3. 子どもからの相談への対応状況…………… 1 7
4. 塾、習い事…………… 1 7
5. 意識…………… 1 7
6. 地域の生活とコミュニケーション…………… 1 9
7. 自己決定に関する意見に対する自信の態度…………… 2 1

I 奈良市の子どもたち

小学5年生 中学2年生 17歳への市民アンケート調査結果の分析

1. 核家族化と三世帯居住

子どもたちは家庭で2人兄弟姉妹が多く（6割強）、そして3人（2割強）、続いて1人（1割強）、4人以上（3.3%）となる。同居に祖父母をあげている場合が14.6%であるので多くは核家族と思われるが、地域別に見ると、祖父母と同居は農村部では56%（中2は71%）であり、他の旧市街地や新興住宅地で12～16%程度であり、違いを見せる。

2. 学習塾、部活、習い事

学習塾は小学5年生では半数近く、中学2年生で7割とさらに増えてくる。特に新興住宅地が小学生、中学生ともに他地区より多い傾向を示す。なお17歳で4割となり、対象が高校生以外も含んでいるためか、数値は下がる。

学習塾の日数は小学5年生では週2日が最も多く（51%）、次いで3日（21%）となり、中学生では最も多いのが週3日（52%）、次いで2日（31%）となる。そのかかる時間では小学5年生の最も多いのが週3時間未満であるのに対して、中学生で多いのは7～10時間と、中学2年生の受験モード（調査時点は12月頃）を示している。

習い事等に関しては小学5年生では習い事が88%、中学2年生では部活が88%、習い事が36%、17歳では部活が77%、習い事が18%となる。習い事の内容は小学校5年生がスポーツ、音楽、習字、そろばん等多様に広がって対象としているのに対して、年齢が上がるにつれてその幅が狭まってくる。音楽が増加してくるのに対して、そろばんや習字は減少してくる。英語などの語学は小学生でも中学生以上の割合で受けている点も注目される。

3. コミュニケーション

1) 保護者との会話時間

① 保護者との会話時間

保護者との会話時間は1日2時間以上が小学校5年生では4割弱いるのに対して、中学2年生ではそれが2割強ぐらいと減少する。17歳では若干上がって26%程度となるが、1時間未満が半数近くになる点では中学生と共通する（小学校5年生では3割程度）。保護者との会話時間ではどの年齢も男女差が明確で、女子の方は会話時間が多く、2時間以上となると男子より10数%、中学2年生では20%も多くなる。また、地域差もみられ、「15分未満」や「まったくしない」は都市部の方が農村部より多くなる。

② 保護者との会話時間と学習塾の時間

小学生では保護者との会話時間が2時間以上において学習塾の時間が3時間未満に多く、また会話時間が30分未満だと10時間以上、まったくしないも10時間以上と相関

がみられる(5% 有意水準)。中学生においては小学生ほど明瞭な相関ではないが、会話時間が15分未満において学習塾の時間が7時間以上という回答が比較的多くなる。17歳でも明瞭なほどではないが相関が高い。

表1 学習塾(時間/週)と保護者との会話時間の関係(小学5年生の場合)

学習塾の学習時間/週 (表頭)と保護者との会話時間(表側)	調査数	3時間未満	3時間～5時間未満	5時間～7時間未満	7時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間以上	無回答
全体	205 100.0	71 34.6	53 25.9	30 14.6	9 4.4	23 11.2	10 4.9	4 2.0	5 2.4
2時間以上	77 100.0	29 37.7	21 27.3	10 13.0	4 5.2	8 10.4	3 3.9	1 1.3	1 1.3
1時間30分～2時間未満	35 100.0	13 37.1	9 25.7	6 17.1	1 2.9	2 5.7	1 2.9	1 2.9	2 5.7
1時間～1時間30分未満	30 100.0	11 36.7	9 30.0	4 13.3	1 3.3	2 6.7	1 3.3	1 3.3	1 3.3
30分～1時間未満	33 100.0	9 27.3	7 21.2	7 21.2	2 6.1	5 15.2	2 6.1	1 3.0	- -
15分～30分未満	18 100.0	6 33.3	4 22.2	1 5.6	- -	5 27.8	2 11.1	- -	- -
15分未満	8 100.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	- -	- -	- -	1 12.5
まったくしない	2 100.0	- -	- -	- -	- -	1 50.0	1 50.0	- -	- -
無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -

③ 保護者との会話時間と習い事の時間

同様に、習い事の時間も保護者との会話時間と相関が若干みられる。小学生において会話時間が1時間未満において学習塾の時間が16時間以上において比較的多いという傾向がみられる。中学生においても会話時間が15分未満は習い事の時間が7時間以上という相関がみられる。17歳でも同様のことが言える。

④ 会話時間と部活の時間

小学生、中学生ともに相関がそれほど明瞭ではないが、会話時間が15分未満になると部活の時間が16時間以上と比較的多くなる。17歳においても同様の傾向が見られる。17歳においても、会話時間が15分未満やまったくしないにおいて、部活時間が7時間以上で多いという相関がみられる。

⑤ 保護者の会話時間と夕食の共食

夕食の共食の頻度との相関をみると小学生においては「いつも一緒に食べる」は会話

時間が「2時間以上」がかなり高く、また「あまり一緒に食べない」や「一人で食べる」は会話時間が1時間未満に比較的多い（漸近有意確率 0.009 で 1%有意水準）。中学生や17歳においても同様の相関がみられる。

表2 保護者との会話時間と夕食の共食（小学5年生の場合）

保護者との会話時間 （表頭）と 保護者との 夕食の共食（表側）	調査数	2時間以上	1時間 30分～2 時間未満	1時間～ 1時間 30分未満	30分～ 1時間未満	15分～ 30分未満	15分未満	まったく くない	無回答
全 体	485 100.0	186 38.4	76 15.7	61 12.6	75 15.5	41 8.5	38 7.8	3 0.6	5 1.0
いつも一緒に食べる	315 100.0	131 41.6	53 16.8	37 11.7	45 14.3	21 6.7	21 6.7	3 1.0	4 1.3
ほとんど一緒に食べる	126 100.0	44 34.9	14 11.1	18 14.3	19 15.1	18 14.3	13 10.3	- -	- -
あまり一緒に食べない	40 100.0	11 27.5	9 22.5	6 15.0	10 25.0	2 5.0	2 5.0	- -	- -
いつも一人で食べる	3 100.0	- -	- -	- -	1 33.3	- -	2 66.7	- -	- -
無回答	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0

2) 家族の食事

① 保護者との夕食時間

家族での食事について「いつも一緒に食べる」という割合は、小学5年生で 65%、中学2年生で 40%、そして17歳で 29%となるというように、年齢が上がるとともにその割合は減少してきている。男女差は小学校、中学校では会話時間と同じく女子の方が 10 数%多く占めているが、17歳となると男女の差はあまり無くなってきている。「いつも一人で食べる」が小学5年生で数人の 0.6%が、中学2年生、17歳となるにつれて数%に増えている。「あまり一緒に食べない」とあわせても、小学5年生で 8.8%、中学2年生で約 16%、17歳で約 25%と年齢が上がるとともに共食の時間が減っているようだ。また、その理由としては親の帰りが遅いからが小学生では多いが、年齢が上がると「自分の帰りが遅いから」が逆転して多くなる。

なお、地域差も会話時間と同様に、都市部の方がその割合は多くなっている。

② 保護者との夕食時間と学習塾の時間

同様に小学生では保護者との夕食を「いつも一緒に食べる」は学習塾が「3時間未満」に多く、「あまり一緒に食べない」では学習塾が「10時間以上」に多いという相関がみられる。中学生でも同様に「あまり一緒に食べない」が学習塾の時間が「7時間以上」において多いという相関がみられる。17歳未満においても同様に相関がみられる。

表3 学習塾の時間と保護者との共食（中学2年生）

学習塾の週あたり時間 (表頭)と保護者との夕 食の共食(表側) (中学2年生)	調査数	3時間未満	3時間～5時間未満	5時間～7時間未満	7時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間以上	無回答
全体	358 100.0	29 8.1	78 21.8	91 25.4	116 32.4	26 7.3	8 2.2	- -	10 2.8
いつも一緒に食べる	115 100.0	13 11.3	34 29.6	33 28.7	26 22.6	5 4.3	2 1.7	- -	2 1.7
ほとんど一緒に食べる	182 100.0	13 7.1	30 16.5	45 24.7	69 37.9	14 7.7	3 1.6	- -	8 4.4
あまり一緒に食べない	57 100.0	3 5.3	14 24.6	11 19.3	19 33.3	7 12.3	3 5.3	- -	- -
いつも一人で食べる	4 100.0	- -	- -	2 50.0	2 50.0	- -	- -	- -	- -
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

③ 保護者との夕食時間と部活の時間

中学生において「あまり一緒に食べない」は部活の時間が「16 時間以上」に比較的多くなるが、例外的に「いつも一人で食べる」の1名だけは部活の時間と相関はしない。17歳においては「あまり一緒に食べない」「いつも一人で食べる」は部活の時間が「20時間以上」に多いという相関が明解にみられる。

④ 保護者への相談状況

保護者に対して「自分から話しかけ、いろいろ相談に乗ってくれる」という回答は小学生において66%、中学生において45%、17歳において53%と変動してくる。男女差もあり、女子の方が中学生、17歳では男子より20ポイント、小学生では10ポイントほど高い。次に多い回答は「親(保護者)の方からいろいろ聞かれて、答える」であり、中学生で26%、17歳で25%となるが、小学生では19%となる。

4. 意識

1) 意識の単純集計から

① 自己肯定感

「自分のことが好き」という質問に「そう思う」「ややそう思う」の肯定派と「あまり思わない」「思わない」の否定派の二群に分けてみると小学5年生ではおよそ6割強が肯定派であるが、逆に4割弱が否定派でいる。さらに中学2年生となると逆転して、肯定派は35%弱、否定派は65%となる。ただし、17歳となると肯定派55%、否定派45%となる。否定派の数を多いと見るかどうか、そして「思わない」というまったくの否定の回答では、小学生で13%、中学生で20%と、17歳の10%弱よりも多い点も気

になる所である。この項目の参考にした西東京市の調査結果と概ね同じ傾向を示しているが、小学生の「思わない」13%は西東京市の8.9%よりも多い。地域別に集計されている小学生、中学生でみると、都市部の方で否定派が多い傾向が示されている。なお性別でも女子の方が否定派は多いという傾向がみられる。

② 孤独感

ユニセフが2007年に15歳の子ども対象に実施した子どもの幸福度調査では「孤独を感じる」と答えた子どもたちが日本では3割と際立っていた（二番目の3倍）。「自分はひとりぼっちであると感じる」に「そう思う」と答える子は数%程度であるが、「やや思う」を含めると小学生が10%強から、中学生で20%弱、そして17歳で20%強と増えてくる。地域差では都市部、そして男女差では若干、女子の方が高いという傾向がみられる。

③ 意見を聞いてくれる大人

「自分たちの意見を聞いてくれる大人がほしい」という質問に「そう思う」と答えているのは小学生で28%、中学生で18%、17歳で16%と年齢とともに下がり気味である。「ややそう思う」を加えた肯定派は小学生で半数強であるが、中学生になると45%程度と下がり、17歳で47%程度であるので、肯定派と否定派が半々程度と分かれる。地域別では都市部で「そう思う」が高く、農村部になると「そう思わない」「あまり思わない」が多くなっていく。

④ 自分のまちが好き

「自分のまちが好き」という質問には「そう思う」が小学生で66%、「やや思う」を含めて9割弱が肯定派である。中学生となると「そう思う」が38%で「やや思う」を含めて74%と下がってくる。17歳となると「そう思う」が33%とさらに下がるが、「やや思う」も含めてとなると中学生同様75%程度となる。

⑤ まちづくりへの参加

「地域の将来を考える機会があれば参加したいか」という質問には「そう思う」は小学生で14%、中学生で6.8%と下がるが、17歳で9.1%となる。「やや思う」を加えた肯定派では小学生が46%、中学生と17歳が35%と10ポイント以上、下がってくる。

⑥ 将来もこのまちに住みたい

「将来もこのまちに住みたい」という質問に「そう思う」は小学生で32%であるが、中学生で16%と半減し、17歳で11%とさらに減少する。「思わない」は小学生で14%、中学生、17歳で17%ほどになる。「やや思う」「あまり思わない」を加えて二群にわけてみると、肯定派は小学生で64%、中学生で53%となり、17歳では否定派が53%と逆転する。

⑦ 塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい

この質問には中学生の反応が高く、過半数の57%が「そう思う」と答えている。小学生や17歳は40%強となっている。「やや思う」を加えると小学生、17歳が75%、中学生が80%程度となる。

⑧ あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい

この質問にはさらに中学生の反応が高く、「そう思う」と答えている数は47%と半数に近い。さらに地域別で差があり、都市部半数程度であるのに対して、農村部では14%となっている。

⑨ 今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる

この項目についても同様に中学生の反応が比較的高く、「そう思う」は41%と5%以上の差があり、「やや思う」と合わせても80%程度となる。

⑩ 学習塾での勉強は進学のために必要である

この項目も中学生の反応が高く、「そう思う」「やや思う」と合わせて、8割弱となっている。地域差では小学生、中学生ともに、旧市街地のポイントは少なく、逆の「あまり思わない」「そう思わない」の合計が25%程度と違いを見せている。

⑪ 自分たちは、地域によって犯罪から守られている

この項目には小学生では「そう思う」が42.5%、「やや思う」を合わせて80%強が肯定的に答えている。しかし中学生になると前者が13%、後者が53%、17歳では同様に11%、54%と大きな違いを見せる。地域別では小学生の「そう思う」という回答が新興住宅地で高く、中学生では農村部の回答が高くなっている。

⑫ 通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない

この項目には小学生では半数強が肯定的に回答しているが、中学生、17歳とあがるにつれて減少し、否定派が55%、65%と増える。地域別では農村や旧市街地に否定派が比較的多くなるのは、計画的な住宅地の多い地域と対比した時に既成市街地や集落の道路の未整備という点も影響しているかと推測される。

⑬ 自分の地域は災害に対して安全である

この項目に対しては「そう思う」が小学生27%、中学生17%、17歳が18%と差を見せている。さらに

「やや思う」を含めてみると肯定的な回答は小学生63%、中学生53%、17歳54%となる。地域別では小学生では農村部が高く、旧市街地で「あまり思わない」が25%と比較的高い値を示し、また中学生でも旧市街地では「思わない」が約14%と他より高い値を示している。

2) 意識のクロス集計

① 自己肯定感と保護者との会話時間の関係

小学5年生においては保護者との会話時間が30分未満においては「自分のことが好き」と「思わない」という回答が比較的多くみられる。中学2年生、17歳においてはそれほど顕著ではないが、ある程度の同様の相関はみられる。

② 自己肯定感と近所で会話をする大人の有無

小学生においては近所で会話をする大人が「ほとんどいない」、「まったくいない」において、自分のことが好きとは「あまり思わない」「思わない」が多いという相関がみられる。同様の相関は中学2年生、17歳の場合においてもみられる。

表4 自己肯定感と近所のコミュニケーション（小学5年生）

自分のことが好き（表頭）と近所で会話する大人の有無（表側）（小学5年生） カイ2乗値 22.525 で漸近有意確率 0.032 で5%有意水準。	調査数	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	無回答
全体	485 100.0	113 23.3	182 37.5	124 25.6	64 13.2	2 0.4
自分の名前を相手が知っていて、いろいろ話をする人がいる	208 100.0	58 27.9	69 33.2	55 26.4	26 12.5	- -
自分の名前を相手が知っていて、あいさつをする程度の人がある	124 100.0	27 21.8	57 46.0	25 20.2	15 12.1	- -
顔を知っているぐらいで、時々あいさつをする程度の人がある	116 100.0	24 20.7	47 40.5	31 26.7	13 11.2	1 0.9
ほとんどいない	16 100.0	- -	5 31.3	8 50.0	3 18.8	- -
まったくいない	14 100.0	3 21.4	3 21.4	3 21.4	5 35.7	- -
無回答	7 100.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3

③ 自己肯定感と住んでいるまちの愛着

「自分のことが好き」と「自分の住んでいるまちが好き」については小学5年生においては両方「そう思う」は84%と高く、両方「思わない」は約13%であるが、ある程度他よりも比較的多く、やや相関がみられる程度である。中学2年生と17歳も、ある程度の相関がみられる。

④ 「住んでいるまちが好き」と近所のコミュニケーション

「自分の名前も知っていていろいろ話をする大人が近所にいる」という子は「自分の住んでいるまちが好き」が高く、逆に近所に会話する大人が「ほとんどいない」「まったくいない」において「あまり思わない」「思わない」が比較的多くなり、ある程度の相関がみられる。

また「近所の大人からほめられたりしかられたりしたこと」においては「よくあった」と「そう思う」が高く、また「ほとんどいない」「まったくいない」と「思わない」「あまり思わない」の相関も見られる。また、「祭りやイベントへの参加」も弱い相関であるが、ある程度関係性をみてとれる。

⑤ 地域の将来の計画づくりへの参画と自己肯定感

「自分のことが好き」に対して「思わない」という子は「地域の将来を考える機会が

あれば参加したい」に「そう思わない」という回答が比較的多いなど、ある程度の相関がみられる。

⑥ 地域の将来の計画づくりへの参画と近所のコミュニケーション

「相手も自分のことを知っているいろいろな話をする大人がいる」と答えている子らは「地域の将来を考える機会があれば参加したい」に「思う」「やや思う」が多く、近所に「まったくくない」という子らは、地域の将来の計画づくりへ参加したいと「思わない」という相関がみられる。また近所からほめられたりしかられたりした経験が「よくあった」において計画づくりへ参加したいと「やや思う」が高く、また「まったくなかった」という場合には参加したいと「思わない」が比較的多いという相関がみられる。カイ2乗検定でカイ2乗値 34.528（自由度9）で1%以下での有意水準を満たしている。

表5 地域の計画づくりへの参加意識と近所のコミュニケーション（小学5年生）

⑤地域の将来を考える機会があれば参加したい（表頭）と近所の大人からほめられたりしかられたり等をした経験の有無（表側）（小学5年生）	調査数	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	無回答
全 体	485 100.0	69 14.2	155 32.0	162 33.4	97 20.0	2 0.4
よくあった	140 100.0	32 22.9	48 34.3	38 27.1	21 15.0	1 0.7
ときどきあった	191 100.0	27 14.1	67 35.1	63 33.0	34 17.8	- -
あまりなかった	111 100.0	9 8.1	29 26.1	47 42.3	25 22.5	1 0.9
まったくなかった	39 100.0	1 2.6	9 23.1	12 30.8	17 43.6	- -
無回答	4 100.0	- -	2 50.0	2 50.0	- -	- -

祭りやイベントの参画状況も、「参加したことがない」という子どもらは、将来の計画づくりへ「参画したくない」という回答が比較的多く、相関がみられる。

⑦ 「将来もこのまちに住みたい」と保護者との会話時間

小学生の場合に「将来もこのまちに住みたい」に「そう思う」と答えている子は保護者との会話時間も2時間以上と長く、「思わない」という子は会話時間が15分未満という相関がみられる。

⑧ 「将来もこのまちに住みたい」と自己肯定感

「自分のことが好き」に「そう思う」と答えている子は「将来もこのまちに住みたい」に「そう思う」と答えている割合が多く、逆に自分のことが好きと「思わない」に答えている子は、「将来もこのまちに住みたい」に「思わない」と答えている子が比較的多

いという相関がみられる。これは小学5年生、中学2年生、17歳に共通してみられるわりと明解な相関である。

表6 将来の居留意向と自己肯定感（小学5年生）

将来もこのまちに住みたい（表頭）と 自分のことが好き（表側）（小学5 年生）カイ2乗値 23.311（自由度9） で<1%有意水準	調 査 数	そ う 思 う	や や 思 う	あ ま り 思 わ な い	思 わ な い	無 回 答
全 体	485 100.0	155 32.0	154 31.8	107 22.1	66 13.6	3 0.6
そう思う	113 100.0	48 42.5	29 25.7	17 15.0	17 15.0	2 1.8
やや思う	182 100.0	59 32.4	59 32.4	47 25.8	16 8.8	1 0.5
あまり思わない	124 100.0	30 24.2	47 37.9	30 24.2	17 13.7	- -
思わない	64 100.0	17 26.6	18 28.1	13 20.3	16 25.0	- -
無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -

⑨「将来もこのまちに住みたい」と「このまちが好き」

想定されることであるが「このまちが好き」に「そう思う」と答えている子は「将来もこのまちに住みたい」に「そう思う」と答えている子の割合が高く、それぞれ「思わない」も呼応し、これも小学5年生、中学2年生、17歳に共通し明解な相関である。
(小学生の場合ピアソンの相関係数は0.44)

表7 将来居住意向とまちへの愛着(小学5年生)

将来もこのまちに住みたい(表頭)と 自分の住んでいるまちが好き(表側) (小学5年生)カイ2乗値181.495(自 由度9)で<1%有意水準	調 査 数	そ う 思 う	や や 思 う	あ ま り 思 わ な い	思 わ な い	無 回 答
全 体	485 100.0	155 32.0	154 31.8	107 22.1	66 13.6	3 0.6
そう思う	316 100.0	145 45.9	89 28.2	46 14.6	33 10.4	3 0.9
やや思う	116 100.0	9 7.8	53 45.7	45 38.8	9 7.8	- -
あまり思わない	34 100.0	1 2.9	10 29.4	15 44.1	8 23.5	- -
思わない	18 100.0	- -	1 5.6	1 5.6	16 88.9	- -
無回答	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -

⑩「将来もこのまちに住みたい」と地域の将来計画づくり参加意向

「地域の将来を考える機会があれば参加したい」に「そう思う」と答えている子は「将来もこのまちに住みたい」に「そう思う」と答えている子の割合が高く、逆に「思わない」同士も高く、相関がこれも、小学5年生、中学2年生、17歳に共通して明解な論理である。

表8 将来居住意向と地域の計画づくり参加意識

将来もこのまちに住みたい（表頭）と地域の将来を考える機会があれば参加したい（表側）（小学5年生）カイ2乗値 57.685（自由度9）で<1%有意水準	調査数	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	無回答
全体	485 100.0	155 32.0	154 31.8	107 22.1	66 13.6	3 0.6
そう思う	69 100.0	30 43.5	19 27.5	9 13.0	10 14.5	1 1.4
やや思う	155 100.0	53 34.2	58 37.4	35 22.6	8 5.2	1 0.6
あまり思わない	162 100.0	47 29.0	60 37.0	40 24.7	15 9.3	- -
思わない	97 100.0	24 24.7	17 17.5	23 23.7	33 34.0	- -
無回答	2 100.0	1 50.0	- -	- -	- -	1 50.0

⑪「将来もこのまちに住みたい」と「通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない」

「通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない」に「そう思う」という子らは「将来もこのまちに住みたい」に「そう思う」と答え、どちらも「思わない」という場合も高い。これも小学5年生のみならず中学2年生、17歳にもあてはまる。

⑫ 「将来もこのまちに住みたい」と近所のコミュニケーション

「自分の名前も知っているいろいろな話をする人がいる」という子は「将来もこのまちに住みたい」に「そう思う」と答え、「ほとんどいない」、「まったくいない」と答えている子らは「将来もこのまちに住みたい」に「思わない」と答えるなど、比較的相関がみられる。

表9 将来居住意向と近所のコミュニケーション（小学5年生）

将来もこのまちに住みたい（表頭）と近所で会話する大人の有無（表側）（小学5年生）カイ2乗値 23.430（自由度 12）で漸近有意確率 0.024 < 5% 有意水準	調査数	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	無回答
全体	485 100.0	155 32.0	154 31.8	107 22.1	66 13.6	3 0.6
自分の名前を相手が知っていて、いろいろな話をする人がいる	208 100.0	68 32.7	64 30.8	45 21.6	29 13.9	2 1.0
自分の名前を相手が知っていて、あいさつをする程度の人がある	124 100.0	43 34.7	48 38.7	24 19.4	8 6.5	1 0.8
顔を知っているぐらいで、時々あいさつをする程度の人がある	116 100.0	35 30.2	32 27.6	30 25.9	19 16.4	- -
ほとんどいない	16 100.0	5 31.3	5 31.3	2 12.5	4 25.0	- -
まったくいない	14 100.0	2 14.3	1 7.1	6 42.9	5 35.7	- -
無回答	7 100.0	2 28.6	4 57.1	- -	1 14.3	- -

5. 居場所

① 平日の放課後に過ごす場所

複数回答可であるが、小学生で最も多いのは「自分の家」（95%）であり、次いで「友達の家」（36%）、「習い事の教室」（30%）、「公園」（18%）、「学習塾」（17%）、「祖父母の家」（11%）となる。公園以外、室内がほとんどを占めていることがわかる。地域の違いも顕著に表れており、農村部では「学校」（63%）が多く、公園はない。新興住宅地では「公園」が約 22%と新しい住宅地の特徴を示しているが、「習い事」37%、「学習塾」（21%）も高い値を示している。男女差もあり、「友達の家」、「公園」、「スポーツクラブ」は男子の方が多く、「習い事の教室」は女子の方が多くなる。

中学生でも「自分の家」（91%）が最も多いが、次に「学校」（68%）となり、部活の影響によるものと思われる。続いて「学習塾」（37%）となり、二ヶ台では「友達の家」（約 13%）と続く。ある面、バラエティに欠け、一様な居場所の様子がうかがえる。公園や図書館も数%であり、公共の場としても中学生の居場所はあまりないことがうか

がえる。

17歳も同様に「自分の家」(84%)、次に学校(47%)、学習塾(14%)、「友達の家」(12%)と減少するも、公共施設が低く一様な様子はそう変わらない。ただし、「ショッピングセンター」(10%)、「コンビニ・ファストフード店」(8%)、「ゲームセンター・カラオケボックス」(7%)が増えている。

② 休日の日中に過ごす場所

「ショッピングセンター」は休日に過ごす場所として小学生でも20%、中学生でも33%にあがる。中学生では「ゲームセンター・カラオケボックス」も13%にあがる。ショッピングセンターについては男女差も前述と同様の傾向が表れている。新興住宅地の公園を除き、図書館、公民館等を含めて公共の場所の占める割合は小さい。

③ ホットとする場所

ホットとする場所となるとさらにバラエティに欠けるようだ。主に「自分の家」が90%前後であり、次いで「祖父母の家」が小学生で38%、中学生で30%、17歳で23%と2番目の場所となる。やはり公共の場所は少ないが、利用が少なかった図書館はホットとする場所としてはポイントが増えている。

6. 地域の生活とコミュニケーション

① 近所で会話をする大人の有無

「自分の名前を相手が知っていて、いろいろ話をする人がいる」と小学生では43%が答えている。地域差もあらわれていて、伝統的農村集落のある地域ではやはり56%にもものぼる高い割合を占める。一方、新興住宅地では「まったくいない」が4%を占め、「ほとんどいない」と合わせると旧市街地とともに6%程度にのぼる。

この「自分の名前を相手が知っていて、いろいろ話をする人がいる」という割合は中学生になると21%と減少し、17歳では16%とさらに減少する。「まったくいない」、「ほとんどいない」をあわせて都市部では1割を越えるように増えてくる。中学、高校等の時期に地域との関わりが薄れてくることを物語る。

② 近所の大人からほめられたりしかられたり等をした経験

この質問には小学生の29%が「よくあった」と答え、「ときどきあった」と合わせると70%弱にのぼる。前述と同様に年齢が上がるにつれて少なくなるようだ。地域別では、都市部の方で「まったくなかった」や「あまりなかった」が30%前後に多くなる。

その内容としては小学生では「ほめられた」が76%と多く、「しかられた」は23%程度である。「教えてもらった」は32%となる。地域差があり、農村部では「ほめられた」が100%にあがる。

③ 祭りやイベント等への参加状況

祭りやイベント等へ「話し合いなど準備から参加する」という回答は小学生で16%、中学生で9%、17歳で5%と年齢の増加とともに減少する。

農村部は高く、小学生で19%、中学生で43%と異なる傾向を示す。「当日だけ参加する」も小学生81%、中学生50%にのぼる。

「参加したことがない」と回答する小学生は都市部で小学生が10数%にのぼり、中学生では22%にのぼる。

7. イジメ等の問題対処

1) 他の人から嫌なことをされた経験の有無

「されたことがある」と回答しているのは小学生で58%、中学生で51%、17歳で48%と半数前後になる。地域別では小学生では農村や旧市街地が、中学生では旧市街地が比較的多い。

2) 嫌なことをされた時の相談相手

その時の相談相手としては小学生では親、友達、兄弟姉妹、担任の先生となる。次に多いのが「誰にも相談できなかつた」で9%にのぼる。中学生になると、まず友達、親、兄弟姉妹、そして担任の先生、先輩と続く。スクールカウンセラーは数%であり、「誰にも相談できなかつた」は5%となる。17歳も同様に最も多いのは友達であり、17歳も中学生同様、友達が第一にあがり、次いで親、担任の先生、兄弟姉妹、先輩と続く。スクールカウンセラーは数%であり、「誰にも相談できなかつた」が6%弱になる。また親に相談するのは男子より女子の方が多いという傾向がある。

8. 自己決定

小学生において「自分で決めている」という項目が高いのは「風呂・食事・勉強などの生活時間」、「服装・髪型・ファッション」、「友だち」、「将来」であり、「親（保護者）に相談して決めている」では「門限など家庭内のルール」、「学校に行くか休むか」、「塾や習い事に行くかどうか」、「親（保護者）が決めている」が最も高い場合はないが、比較的高い割合を占めている項目では、「門限など家庭内のルール」、「学校に行くか、休むか」となっている。

中学生においては「自分で決めている」が高いのは「風呂・食事・勉強などの生活時間」、「服装・髪型・ファッション」、「塾や習い事に行くかどうか」、「友だち」、「恋愛」、「将来」となる。「親に相談して決めている」では「門限など家庭内のルール」、「学校に行くか、休むか」となり、「親（保護者）が決めている」が最も高い場合はないが、比較的高い割合を占めている項目では、「門限など家庭内のルール」となっている。

17歳の場合は「門限など家庭内のルール」が「親（保護者）に相談して決めている」が最も高い以外、他の項目はすべて「自分で決めている」が最も高くなっている。

9. 将来の夢や目標の有無

小学生では「ある」と答えているのは76%であり、中学生では53%、17歳では63%となる。地域差では小学校では「ない」と答えている割合が農村部に、中学校では旧市街地に比較的多い。小学校、17歳では男子に「ない」という答えが比較的多いという傾向があるが、中学生では差はみられない。

10. 総合化

意識を中心に項目の総合的な分析として因子分析を行ってみた。

表 10 因子分析 回転（バリマックス法）後の因子行列

	第一因子	第二因子	第三因子	第四因子	第五因子	第六因子	第七因子	第八因子
近所で会話をする大人の有無	0.664	0.056	0.021	0.103	-0.017	0.014	0.092	-0.016
近所の大人からほめられたりしかられたり等をした経験の有無	0.569	-0.016	-0.033	0.143	0.03	0.096	0.114	0.085
祭りやイベント等への参加状況	0.438	0.021	0.053	0.048	0	0.022	0.051	-0.05
⑤地域の将来を考える機会があれば参加したい	0.27	0.195	0.051	0.12	0.214	0.195	0.177	0.083
⑥将来もこのまちに住みたい	0.101	0.969	0.189	0.103	0.024	0.001	-0.054	0.021
⑬自分の地域は災害に対して安全である	0.032	0.117	0.824	0.178	0.045	0.098	0.063	-0.018
⑪自分たちは、地域によって犯罪から守られている	0.182	0.175	0.43	0.316	0.202	0.02	-0.054	-0.024
⑫通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない	-0.006	0.03	0.39	0.015	-0.002	-0.007	-0.05	-0.004
②自分はひとりぼっちであると感じる	0.008	0.046	-0.053	-0.534	0.088	-0.016	-0.077	0.228
①自分のことが好き	0.043	0.088	0.131	0.511	0.094	0.168	0.137	0.096
④自分の住んでいるまちが好き	0.238	0.337	0.235	0.432	0.174	0.044	-0.074	0.045
保護者との夕食の共食頻度	0.133	-0.002	0.061	0.243	-0.011	0.002	-0.085	-0.039
保護者への相談状況	0.156	0.075	-0.005	0.24	0.034	0.056	0.08	0.026
⑩学習塾での勉強は進学のために必要である	0.034	0.027	0.065	0.013	0.705	0.116	0.001	-0.023
⑨今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる	-0.016	-0.013	0.023	0.013	0.611	0.045	-0.051	0.158
問 15 将来の夢や目標の有無	0.11	-0.009	-0.042	0.111	0.058	0.752	-0.059	-0.008
自己決定⑦将来	0.028	0.021	0.078	0.048	0.071	0.425	0.071	-0.037
自己決定⑤塾や習い事に行くかどうか	0.068	0.026	-0.057	-0.036	-0.059	0.032	0.566	-0.084
自己決定④学校に行くか、休むか	0.092	-0.031	0	0.049	0.034	0.005	0.357	0.004
自己決定②門限など家庭内のルール	0.093	-0.009	0.002	0.266	-0.102	0.045	0.326	0.188
③自分たちの意見を聞いてくれる大人がほしい	-0.029	0.022	-0.019	-0.028	0.116	0.064	0.097	0.419
⑦塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい	-0.018	0.064	0.068	-0.02	-0.071	-0.18	-0.124	0.357
⑧あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい	0.07	-0.2	-0.098	-0.031	0.103	-0.012	-0.047	0.266
初期固有値	3.18	1.79	1.664	1.396	1.276	1.184	1.131	1.086
分散%	13.828	7.784	7.235	6.069	5.547	5.15	4.919	4.722
累積%	13.828	21.611	28.846	34.915	40.463	45.612	50.532	55.254

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

上記のように8因子が抽出された。第一因子は地域とのコミュニケーション、第二因子

子は単独で将来にこのまちに住みたいという意識、第三因子は地域の安全性、第四因子は保護者とのコミュニケーションと自己肯定感や非孤独感（孤独感はマイナス値）、第五因子は受験指向、第六因子は将来計画、第七因子は自己決定、第八因子は自律性というように見てとれる。この因子から奈良市の子どもの傾向を類型化して見ることができる。

Ⅱ 大人へのアンケート結果

1. 概要

大人へのアンケートの回収数は814票で、年齢層では60歳代以上が4割を占める。子どもの有無では73%は子どもがいると答えている。60歳代以上の方には子どもといっても子どもか孫かは不明である。「17歳までの子どもがいる」と答えているのが229名で28%となっている。

2. コミュニケーション

その「17歳までの子どもがいる」と答えている家庭229名に対して会話時間をみると2時間以上が35%と子どもアンケートよりも多い。夕食の共食は「いつも一緒に食べる」が46%と小学生ほどではないが、中学生、17歳よりは多い。食べない理由の多くは親の帰りが遅いから(67%)となっている。

3. 子どもからの相談への対応状況

「子どもから話しかけて相談に乗る」が40%、「こちらから話しかけて聞く」が39%と拮抗している。

4. 塾、習い事

76%が塾や習い事をしてしていると答えていて、学習塾は52%、習い事が63%、学校の部活が43%となっている。子どもに聞いたアンケート結果の中学生ほどではないが、小学生や17歳ぐらいと同じ程度といえる。学習塾は最も多いのが週2日(36%)、次に週3日(28%)に集中する。学習塾に通う理由としては、「一人では勉強をしないから」が42%と多く、「子ども自ら勉強したいとのことから」が36%、「受験で失敗したくないから」が33%と続く。

習い事は週1日が多く47%で次に週2日で24%となる。内容は水泳が最も多くて29%、次に音楽が27%と続く。

5. 意識

1) 意識の単純集計から

① 行政は子どもの声をもっと聞いて施策に反映すべきだ には「そう思う」「ややそう思う」それぞれ37%と、多くが肯定的である。30歳代、40歳代の子育て世代が多く、実際、子どもがいるという人、そして17歳以下の子どもがいるという人において高く、有意な差が表れている。

② 自分の住んでいるまちが好きだ にはやはり「そう思う」が高く、「ややそう思う」とあわせて、多くが肯定的な回答である。ただし、20歳代、40歳代に「あまり思わない」が比較的他より高めにある点が見られる。17歳以下の子どもがいる人と重なる。

③ 地域の将来を考えることに子どもが参加した方がよい には「やや思う」(42%)と「そう思う」(36%)と多くが肯定的な回答であり、とりわけ60歳代以上に多い。20歳代は

じめ若い世代に「思わない」「あまり思わない」が計2割ほどみられる。

④ 将来もこのまちに住んでいたい にも「そう思う」(45%)、「やや思う」(34%)と肯定的な回答が多くを占める。ただし、若い世帯、17歳以下の子どもがいる世帯において「あまり思わない」が他よりも若干多い。

⑤ 塾や習い事よりも子どもには思いっきり遊ぶ自由な時間が必要だ にも「やや思う」(47%)と「そう思う」(39%)と多くが肯定的な回答である。ただし年代や子どもの有無などの違いでみた相関はあまり見られない。

⑥ 子どもの生き方は子ども自身で決めるものだ も「やや思う」(46%)「そう思う」(36%)と多くが肯定的な回答である。ただし年代や子どもの有無などの違いでみた相関はあまり見られない。

⑦ 子どもは今勉強をがんばれば将来は楽になる には「やや思う」(39%)と「あまり思わない」(34%)が拮抗している。特に20歳代において「あまり思わない」が47%と比較的高くなっている。

⑧ 学習塾での勉強は進学のために必要だ は「やや思う」(46%)と「そう思う」(19%)に対して「あまり思わない」(27%)と2/3が肯定的である。若干の差であるが17歳の子どもがいない人で「あまり思わない」がやや高い。

⑩ 家庭や学校だけではなく地域も子どもの育成に責任がある には「そう思う」(40%)と「やや思う」(42%)とほとんどの多くが肯定的な回答である。17歳以下の子どもがいない人の方が多いという差がみられる。

⑪ 子どもの安全は地域で守るものだ には「そう思う」が48%と半数弱にのぼり、「そう思う」(41%)と9割かたが肯定的な回答である。

⑫ 子どもにもひとりの人間としての権利がある には「そう思う」が68%と高い割合を占め、「やや思う」(24%)と計92%が肯定的な回答である。子どものいる人ほど高いという、いない人に比べて、若干の差がみられる。

⑬ 自分の地域は災害に対して安全である には「やや思う」(46%)が多いが、「あまり思わない」が30%もあり、「思わない」(8%)と4割弱が安全でないという意識である。

⑭ 地域で子どもが通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない に対しては「思わない」「あまり思わない」ともに38%である。3/4ほどが否定的な回答である。30歳代、次いで20歳代に、17歳以下の子どもがいる人に否定的な回答が高い。

2) 意識のクロス集計から

③地域の将来を考えることに子どもが参加した方がよい(表頭)と⑫子どもにもひとりの人間としての権利がある(表側)とのクロスでは、権利を認める人の方が参加した方がよいと答える等のかなりの相関がみられる。

表 11 子どもが地域の将来計画づくり参加への意識と子どもの権利意識

	調査数	そう思う	やや思う	あまり ない あまり 思わ	思わない	無回答
全 体	814 100.0	290 35.6	339 41.6	135 16.6	19 2.3	31 3.8
そう思う	553 100.0	231 41.8	220 39.8	81 14.6	11 2.0	10 1.8
やや思う	198 100.0	48 24.2	106 53.5	38 19.2	3 1.5	3 1.5
あまり思わない	37 100.0	10 27.0	10 27.0	14 37.8	3 8.1	- -
思わない	4 100.0	- -	1 25.0	1 25.0	2 50.0	- -
無回答	22 100.0	1 4.5	2 9.1	1 4.5	- -	18 81.8

6. 地域の生活とコミュニケーション

1) 知っている子ども 「名前を知っていて話をする子どもの人数」においては1～2人が24%で、次いで3～4人と5～6人がそれぞれ22%で続く。平均人数が5.6人で、7人代が20歳代、30歳代、40歳代で、50歳以上では3人程度となる。「名前は知らないが話をする子どもの人数」となると少なくなり、全体平均で3.4人、年齢で大きな差はなく3～4人程度が平均となる。「話はしないが顔も名前も知っている子どもの人数」となると平均は5.7人で、40歳代が最も多く平均は9.8人となり、20歳代や30歳代でも6人程度で、50歳代から5、4、3人と減ってくる。20歳～30歳代で多いのは学校や地域の子ども会やスポーツ少年団等の地域の子ども関係の活動を通してであろう。

2) 祭りやイベント等への参加状況 をみると、「参加したことがない」が37%近くあり、20歳代では52%にものぼり、他30歳代も47%と次に多くなる。

祭りやイベントに参加する人の方が近所に知り合いやコミュニケーションが多いという相関がみられる。

表 12 近所のコミュニケーションと地域行事への参加

	調査数	名前を知っていて、いろいろ話をする人がいる	名前を知っていて、あいさつをする程度の人がある	名前を知っていて、時々あいさつをする程度の人がある	顔を知っているくらいで、時々あいさつをする程度の人がある	ほとんどいない	無回答
全 体	814 100.0	381 46.8	246 30.2	111 13.6	51 6.3	25 3.1	
話し合いなど準備から参加する (したことがある)	163 100.0	127 77.9	28 17.2	4 2.5	1 0.6	3 1.8	
行事の当日だけ参加する (したことがある)	329 100.0	173 52.6	108 32.8	34 10.3	8 2.4	6 1.8	
参加したことがない	299 100.0	73 24.4	108 36.1	73 24.4	41 13.7	4 1.3	
無回答	23 100.0	8 34.8	2 8.7	- -	1 4.3	12 52.2	

またそれは近所の子どものコミュニケーションとの相関とも重なる。

表 13 近所の子どものコミュニケーションと地域行事への参加

	調査数	名前を知っていて話をする子どもがいる	名前は知らないが話をする子どもがいる	話さないが顔も名前も知っていない子どもがいる	いない	無回答
全 体	814 100.0	311 38.2	112 13.8	157 19.3	325 39.9	23 2.8
話し合いなど準備から参加する (したことがある)	163 100.0	83 50.9	39 23.9	47 28.8	36 22.1	- -
行事の当日だけ参加する (したことがある)	329 100.0	155 47.1	47 14.3	71 21.6	102 31.0	4 1.2
参加したことがない	299 100.0	68 22.7	24 8.0	39 13.0	184 61.5	5 1.7
無回答	23 100.0	5 21.7	2 8.7	- -	3 13.0	14 60.9

それは若干このまちに住んでいたいという意識にも関連する。

表 14 将来居留意向と地域行事への参加

④将来もこの まちに住んで みたい VS 問 12 イベント等への 参加状況	調査数	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	無回答
全 体	814 100.0	366 45.0	277 34.0	107 13.1	37 4.5	27 3.3
話し合いなど準備から参加する (したことがある)	163 100.0	83 50.9	54 33.1	17 10.4	5 3.1	4 2.5
行事の当日だけ参加する (したことがある)	329 100.0	161 48.9	113 34.3	36 10.9	16 4.9	3 0.9
参加したことがない	299 100.0	113 37.8	106 35.5	51 17.1	15 5.0	14 4.7
無回答	23 100.0	9 39.1	4 17.4	3 13.0	1 4.3	6 26.1

7. 自己決定に関する意見に対する自身の態度

① 風呂・食事・勉強などの生活時間 「親（保護者）に相談して決めること」が約 57%と最も高いが、小学生では 21%で、中学生、17歳となるとより低くなり、「自分で決めている」は年齢が上がるとともに高くなる。

表 15 風呂・食事・勉強の生活時間の決定

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や子ども同士で相談して決めている	親（保護者）が決めている	その他（よくわからない）	無回答
小学 5 年生	485 100.0	213 43.9	104 21.4	4 0.8	77 15.9	85 17.5	2 0.4
中学 2 年生	558 100.0	365 65.4	50 9.0	5 0.9	36 6.5	91 16.3	11 2.0
17 歳	470 100.0	360 76.6	35 7.4	1 0.2	21 4.5	43 9.1	10 2.1
29 歳以上	814 100.0	112 13.8	460 56.5	21 2.6	147 18.1	17 2.1	57 7.0

② 門限など家庭内のルール 親（保護者）に相談して決めることが 58%と親（保護者）が決めることが 32%に分かれる。子どもたちはそれらに加えて「自分で決めている」も年齢が高くなると増えてくる。

表 16 門限など家庭内ルールの決定

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友だちなど子どもに相談して決めている	親（保護者）が決めている	その他（よくわからない）	無回答
小学生	485	67	202	1	151	59	5
	100.0	13.8	41.6	0.2	31.1	12.2	1.0
中学生	558	115	169	3	143	117	11
	100.0	20.6	30.3	0.5	25.6	21.0	2.0
17 歳	470	108	153	1	125	76	7
	100.0	23.0	32.6	0.2	26.6	16.2	1.5
29 歳以上	814	6	474	17	264	9	44
	100.0	0.7	58.2	2.1	32.4	1.1	5.4

③ 服装・髪型・ファッション 「親（保護者）に相談して決めること」が 46%と最も高い。次いで「子ども自身が決めること」（32%）となる。特に「子ども自身が決めること」は 20 歳代など若い世代に多い。実際に子どもたちは「自分で決めている」が高い。

表 17 服装・髪型・ファッションの自己決定

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友だちなど子どもに相談して決めている	親（保護者）が決めている	その他（よくわからない）	無回答
小学 5 年生	485	286	91	3	71	33	1
	100.0	59.0	18.8	0.6	14.6	6.8	0.2
中学 2 年生	558	404	68	6	22	46	12
	100.0	72.4	12.2	1.1	3.9	8.2	2.2
17 歳	470	379	48	12	7	17	7
	100.0	80.6	10.2	2.6	1.5	3.6	1.5
29 歳以上	814	263	370	59	38	31	53
	100.0	32.3	45.5	7.2	4.7	3.8	6.5

④ 学校に行くか、休むか は親（保護者）に相談して決めることが62%と最も高い。しかし、子どもたちは「自分で決めている」も年齢が高くなると増えてくる。

表 18 学校に行くか休むかの決定

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友だちなど子どもに相談して決めている	親（保護者）が決めている	その他（よくわからない）	無回答
小学5年生	485 100.0	103 21.2	244 50.3	- -	119 24.5	15 3.1	4 0.8
中学2年生	558 100.0	172 30.8	277 49.6	1 0.2	69 12.4	28 5.0	11 2.0
17歳	470 100.0	233 49.6	196 41.7	- -	17 3.6	11 2.3	13 2.8
29歳以上	814 100.0	93 11.4	547 67.2	5 0.6	100 12.3	23 2.8	46 5.7

⑤ 塾や習い事に行くかどうか も親（保護者）に相談して決めることが69%と最も高い。これらについては小学生（41%）、中学生（38%）、17歳（37%）よりも高い。その分、実際の子どもたちは「自分で決めている」も大人の回答以上を占める。

表 19 塾や習い事の決定

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友だちなど子どもに相談して決めている	親（保護者）が決めている	その他（よくわからない）	無回答
小学5年生	485 100.0	168 34.6	200 41.2	1 0.2	92 19.0	21 4.3	3 0.6
中学2年生	558 100.0	215 38.5	214 38.4	- -	77 13.8	41 7.3	11 2.0
17歳	470 100.0	219 46.6	176 37.4	2 0.4	13 2.8	41 8.7	19 4.0
29歳以上	814 100.0	142 17.4	560 68.8	10 1.2	45 5.5	10 1.2	47 5.8

⑥ 友だち 「子ども自身が決めること」が約84%で最も多い。これは子どもたちも同様である。

表 20 友達の決定

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友だちなど子どもに相談して決めている	親（保護者）が決めている	その他（よくわからない）	無回答
小学5年生	485 100.0	439 90.5	8 1.6	4 0.8	1 0.2	29 6.0	4 0.8
中学2年生	558 100.0	490 87.8	6 1.1	- -	2 0.4	50 9.0	10 1.8
17歳	470 100.0	439 93.4	3 0.6	2 0.4	- -	16 3.4	10 2.1
29歳以上	814 100.0	681 83.7	33 4.1	32 3.9	1 0.1	24 2.9	43 5.3

⑦ 恋愛 も「子ども自身が決めること」が約75%で最も多い。子どもたちも同様である。

表 21 恋愛について

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友だちなど子どもに相談して決めている	親（保護者）が決めている	その他（よくわからない）	無回答
小学5年生	558 100.0	381 68.3	8 1.4	7 1.3	- -	148 26.5	14 2.5
中学2年生	470 100.0	377 80.2	4 0.9	5 1.1	- -	73 15.5	11 2.3
17歳	814 100.0	613 75.3	68 8.4	40 4.9	1 0.1	41 5.0	51 6.3
20歳以上	814 100.0	613 75.3	68 8.4	40 4.9	1 0.1	41 5.0	51 6.3

⑧ 仕事・アルバイト では親（保護者）に相談して決めること（51％）に次いで子ども自身が決めること（39％）となる。

表 22 仕事・アルバイトについて

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友達など子どもに相談して決めている	いる	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友達など子どもに相談して決めている	無回答
中学2年生	470	180	113	2	10	146	19	
	100.0	38.3	24.0	0.4	2.1	31.1	4.0	
17歳	814	313	417	11	8	18	47	
	100.0	38.5	51.2	1.4	1.0	2.2	5.8	
20歳以上	814	313	417	11	8	18	47	
	100.0	38.5	51.2	1.4	1.0	2.2	5.8	

⑨ 将来 子ども自身が決めること（54％）と、親（保護者）に相談して決めること（37％）とに分かれる。

表 23 将来についての自己決定

	調査数	自分で決めている	親（保護者）に相談して決めている	兄弟姉妹や友達など子どもに相談して決めている	親（保護者）が決めている	その他（よくわからない）	無回答
小学5年生	485	395	53	-	4	32	1
	100.0	81.4	10.9	-	0.8	6.6	0.2
中学2年生	558	355	108	3	9	76	7
	100.0	63.6	19.4	0.5	1.6	13.6	1.3
17歳	470	245	155	4	6	50	10
	100.0	52.1	33.0	0.9	1.3	10.6	2.1
29歳以上	814	438	298	5	1	27	45
	100.0	53.8	36.6	0.6	0.1	3.3	5.5